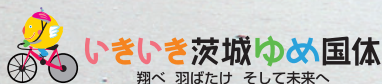


今回からスタートするこの企画。
Visionに関わるさまざまな「笑顔」をお届けします！
今号より、「スポーツで繋がる夢、ここ茨城から」というテーマで、
2019年に控える茨城国体に関わる「Smile」を連載でご紹介！！



ゴールシーンは、 鳥肌が立つほどの「迫力」と「感動」

茨城県自転車競技連盟理事、多田光成さんにインタビューしました。

——今大会はどういった大会なのでしょうか。

この大会は、関東の高校生たちの自転車競技大会です。インターハイの関東予選として行われています。

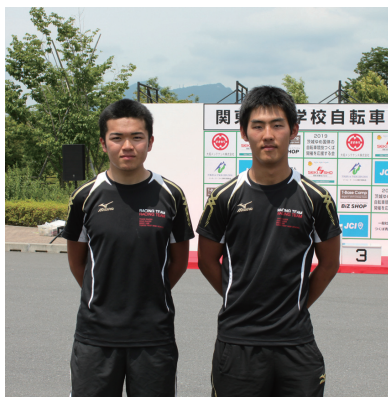
実は、2019年の茨城国体で、サイクルロードレースをつくば市で開催することが決まっています。3年後に、今日この場で戦った選手たちが、今度は成年の部に出場し、またつくばに帰ってきてくれることが楽しみです。

——自転車競技の「おもしろさ」は？

例えば、今回のロードレースの場合は、約150人くらいの選手が一同に群れとなって、ここ筑波山のふもとのコースを走ります。そのスピード感が魅力だと思います。一番きつい上り坂でも約40km以上のスピードで走っています。1周10・6kmを約12分ほどで走っているの、道沿にいる観客は、選手が通過するときには、すごい迫力と風を感じることができます。



この日は大会会場にて、茨城国体先取りし、アーチェリー・パワーリフティングの体験コーナーのほか、ダンスパフォーマンスやスポーツ鬼ごっこ・いばらっきーとのふれあいコーナーも特設されていました。



つくば市出身の選手（取手第一高等学校）
右：朝倉 智仁君（2年生）
左：多田 れおん君（1年生）



→今大会の上位選手たち（上写真：女子、下写真：男子）